

2009/5/25

特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議  
 高等学校 WG (第 3 回) 資料

## 高等学校の入学試験における配慮の在り方について

日本発達障害ネットワーク・副代表  
 NPO 法人全国 LD 親の会・理事  
 山岡 修

### I 高等学校の入試の状況 (全国 LD 親の会の会員調査より)

調査の概要: 2005 年度に会員調査を行い、315 名から回答を得て集計したもの

#### 1. 中学校の学級籍 (n=315)

	人数	比率 (%)
通常学級	205	65.1
通級指導教室利用	33	10.5
特殊学級	67	21.3
養護学校中等部	3	1.0
無回答	7	2.2
合計	315	100.0

#### ◇中学校の学級籍×高校 (公立・私立・養護学校)

	公立 (n=85)		私立 (n=150)		養護学校 (n=61)	
	人数	比率 (%)	人数	比率 (%)	人数	比率 (%)
通常学級籍	67	78.8	119	79.3	14	23.0
通級指導教室	2	2.4	19	12.7	8	13.1
特殊学級	14	16.5	12	8.0	39	63.9
養護学校中等部	2	2.4	0	0.0	0	0.0
計	85	100.0	150	100.0	61	100.0

### 2. 中学校卒業後の進路選択

#### (1) 進路選択について (n=315)

	人数	比率 (%)
困ったことがあった	176	55.9
困ったことはなかった	128	40.6
無回答	11	3.5
合計	315	100.0

**\*困ったことがあった (n=176) 内容**

項 目	人数	比率(%)
学力が見合う学校が少なく、選択の余地がなかった	86	56.1
中学校からの情報が少なかった	73	41.5
本人にあったカリキュラムの学校がなかった	51	29.0
中学校の進路指導が本人の適性を配慮したものではなかった	33	18.8
学力が見合わない学校を本人が希望した	21	11.9
学区域が指定されているため、希望する学校を受験できなかった	11	6.3
その他の困ったことがあった	28	15.9

**\*その他の困ったこと**

**<本人の希望と違った>**

- ・ Dr のすすめる学校と本人の希望する学校がちがった
- ・ 親子で希望する学校がちがった
- ・ 本人の希望と親・担任の考えがちがっていた

**<遠距離通学>**

- ・ 希望する高校が通学時間のかかるところだった
- ・ 通学距離が長く、負担になるのではと心配だった

**<不登校>**

- ・ 入学後、不登校になるのが目に見えていたため、進学させていいものか悩んだ
- ・ 不登校だったため、通学することが困難だった
- ・ 不登校でフリースクールに通っていたので情報を集めるのに苦労し
- ・ 不登校のため、進路について何も言ってもらえなかった
- ・ 出席日数不足で私立高の推薦をもらえなかった

**<特別支援学校への進学について>**

- ・ 普通学級籍だったため、養護学校を希望しても受け入れはできないといわれた
- ・ 障害を理由に（希望する高校に）断られたので、養護学校に進学した
- ・ 養護学校を希望する場合、併願が許されず。12月末には意思決定をしなければならない

**(2) 高校の入学試験**

①入学試験に際して、受験先の学校と本人の障害についての相談(n=315)

	人数	比率(%)
相談した	131	41.6
相談しなかった	165	52.4
無回答	19	6.0
合計	315	100.0

◇相談×高校（公立・私立・養護学校）

	公立(n=83)		私立(n=147)		養護学校(n=55)	
		比率(%)		比率(%)		比率(%)
相談した	28	33.7	57	38.8	40	72.7
相談しなかった	55	66.3	90	61.2	15	27.3

②入学試験のとき、特別の配慮について(n=315)

	人数	比率(%)
希望したので配慮があった	18	5.7
希望したが配慮無かった	7	2.2
必要なし	257	81.6
無回答	33	10.5
合計	315	100.0

◇配慮×高校（公立・私立・養護学校）

	公立(n=78)		私立(n=145)		養護学校(n=49)	
		比率(%)		比率(%)		比率(%)
希望したので配慮があった	5	6.4	8	5.5	3	6.1
希望したが配慮がなかった	3	3.8	2	1.4	1	2.0
必要なし	70	89.7	135	93.1	45	91.8

\* 「希望したので、配慮があった」の配慮内容

<公立>

- ・イライラした時、別室受験への切り替え
- ・多くの人がいると苦手なので、先生に付き添いでついてもらった
- ・別室受験で、一人だけで受験した

<私立>

- ・作文を書く間、先生が横についてくれた
- ・受験日の変更
- ・会話が下手な事を伝えてあったので、面接のとき配慮してくれた

<養護学校>

- ・本人に先の見通しを説明してくれた

\* 「希望したが、配慮はなかった」の希望した配慮内容

<公立>

- ・英語のヒアリング問題の時間延長（聴覚認知障害）

<私立>

- ・読字障害があるので、問題を別室で読んでほしかった

### (3) 高校入試に関する要望

\*回答は自由記述としたが、内容をカテゴリー化し、人数をカウントした。主な記述内容は列記した

	人数
中学校からの情報	33
高等学校における理解と支援	20
発達障害の生徒に対応できる高等学校	19
本人の適性に配慮した進路指導	14
中学校と高等学校が連携	6
相談機関	4
不登校への対応	2
その他	3

#### \*中学校からの情報

- ・学校での情報（集団での様子）を担任からもっともらえたらと思う
- ・配慮してくれる学校名を具体的におしえてほしい
- ・普通科以外、いろんな学科があることを紹介してほしい
- ・サポート校など選択できる学校を紹介してほしい

#### \*本人の適性に配慮した進路指導

- ・学力からみて合格する学校でなく、適性にあわした学校を目指した指導
- ・学力だけでなくどのような支援があるか考えてほしい
- ・担任と進路担当の教員のみが指導している状況だがもっと幅広い人材が進路指導をしてほしい
- ・中学の先生が発達障害の特性を理解したうえで進路指導をしてほしい

#### \*中学校と高等学校との連携

- ・具体的な相談ができ、中学と高校の橋渡しをしてくれる人がいて欲しい
- ・中学の先生から高校への引継ぎ

#### \*相談機関

- ・学校外にも本人の適性を考えて進路相談が出来る場所があればと思う
- ・進路相談ができる公的な機関がほしい

#### \*不登校への対応

- ・不登校であったため、評価がひくく、一般入試は難しかった。進路もせまくなった。もっと選択肢が広がればと思う
- ・不登校でも対応してくれる高校が近くにない困った

## II 高等学校の入学試験における配慮の在り方

### 1. 配慮事項

#### (1) 学科試験

- ① 別室受験
- ② 試験問題の拡大
- ③ 時間延長
- ④ ワープロ使用
- ⑤ 一部科目の免除、変更、代替
- ⑥ 問題の読み上げ
- ⑦ 口頭による回答

#### (2) その他

- ① 中学との引き継ぎ
- ② 個別の説明（入試、学校生活、進路）

### 2. 配慮を受けるための条件

障害があるために、通常の入試の形式や条件では  
不利益を受ける  
本来持っている能力が発揮できない

[例]

答えは分かっているが、字が書けない  
集団の中では、集中ができない  
読字障害があるために、通常の形体や大きさでは読むことに困難がある

### 3. 配慮を受ける必要性の確認

- (1) 医師の診断書
- (2) 在学からの申請（在学中の支援と同等の配慮）
- (3) その他(1)(2)と同等の判定等であって学校長が認めた場合

### 4. 在学中の配慮・支援

高等学校の在学中に適切な支援を受けられる体制を整備することが必要  
(入試で受けた配慮と同等の配慮は在学中も必要)

### 5. 本人・保護者の声（色々な考えの本人・保護者がいる）

- (1) なんとか、普通高校を卒業したい。  
せめて、高校は卒業させたい。  
→高等特別支援学校の校名の工夫
- (2) 発達障害があることが分かると、入試で落とされるのではないかと  
発達障害があることを言わないで入試をパスしたい。
- (3) 発達障害に適した学校がなかなかない

### Ⅲ 高等学校における特別支援教育における課題

「いかに入学させ、無事卒業させるか」ではなく、  
「いかに受け入れ、一人ひとりのニーズに応じて、進学や将来の自立や社会参加に向けた教育を行っていくか」が大切

1. 発達障害等に適した教育課程を持つ学科の設置
2. 高等学校における特別支援学級、通級による指導等の特別な場の設置
3. 特別な教育課程の編成
  - ソーシャル・スキル
  - コミュニケーション・スキル
  - 社会生活能力
  - 自己理解
  - 自己有能感の醸成
4. 就労・自立に向けた教育課程の編成
  - 作業学習、職業訓練
  - 就労体験、職場実習、
5. 卒業後のアフター・スクールの設置
  - 1年程度の専攻科を設置して、職業訓練などを行う
  - 商業高校、特別支援学校施設を利用して昼間部を設置する等
6. 進路指導
  - 本人の適性にあつたきめ細かな進路指導、就職支援
7. 進路先への引き継ぎ

以上